

週の半分はまちへ！対話から生まれる「日常の居心地」の作り方

R8. 3時点

【取組の概要】

前橋市は、民間主体のまちづくり指針「前橋アーバンデザイン」に基づき、歩行者中心の豊かな空間創出を目指しています。市が広瀬川河畔等のインフラ整備を担う一方、都市再生推進法人やプレーヤーと役割を分担し、官民連携による公共空間の運営・利活用を促進しているのが特徴です。社会実験の結果を反映し、イベント時のみならず日常の居心地を追求することで、エリア全体の価値向上を図っています。



【担当者インタビュー】

前橋市市街地整備課 鈴木 裕人さん



広瀬川河畔緑地での社会実験の様子



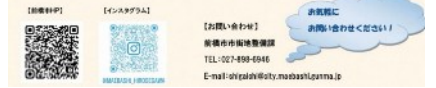
官民連携による空間整備・活用の様子

広瀬川河畔緑地で
楽しいこと、しませんか？



～活用したい方を募集しています～
★活用にかかる公園使用料は免除となります。

※条件等は伊をご確認ください。



利活用促進のポスター

Q. この取組におけるあなたの役割・担当は？

広瀬川湖畔緑地で公共空間利活用等のワンストップ窓口を中心に、利活用促進や調整業務などを担当しています。

Q. あなたにとってウォークブルに取り組む「最初の一歩」はなんでしたか？どうやってその一歩を踏み出すことができましたか？やりがいやモチベーションにつながっていることもあれば教えてください。

地域や関係者の皆さんに挨拶に回ることに、現場に出ることから始めました。個人の名前で呼ばれるようになった時は、一歩踏み込めたのかなと感じましたし、現場で喜んでる人たちの姿や、『前橋、面白いね』って言って、外からどんどん新しい人がまちに入ってきてくれるのを見ると、すごく意味があることをやっているんだと、自信を持って言えるようになりました。

Q. 取組の中で大切にしていることや工夫していることはありますか？

週の半分はまちに出て、現場での対話を大切にしています。関係者との調整や協議が難航しているときは相手の立場や見解を受け止めた上での選択肢を用意して一緒に考え、「前橋市アーバンデザイン」を軸としつつも柔軟な対応を心がけています。

Q. 社会実験の結果をどのように取組や空間整備に反映していますか？

社会実験で得た通行量や滞留時間、アンケートによる安全性の評価を定量・定性データとして警察協議や庁内の説明に活用しています。河畔緑地の再整備の際は、ベンチの高さ変更、夜間の間接照明、池を埋め立てた芝生広場など、滞在快適性の向上のために、実験で得た意見を反映しました。